【様式】

令和３年度　学校マネジメントシート

学校名（　三重県立津高等学校　）

1　目指す姿

(1) 目指す学校像		「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校
(2)	育みたい児童生徒像	1　日常において「自主・自律」を実践できる、知・徳・体の調和のとれた生徒 2　主体的に学び、自らを律し、粘り強く努力することで、生涯にわたって自己実現を図るとともに、心豊かで、高い志を抱いて社会に貢献できる生徒
	ありたい教職員像	1　子どもたちに対する愛情にあふれ、豊かな人間性、人権感覚を備えた教職員 2　目指す学校像の実現に向け、前向きでチャレンジ精神にあふれた組織風土の中で、同僚性を育み、自らの専門性を高め続ける教職員

2　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 ・質が高く、生徒が能動的に取り組む授業 ・安全で安心できる学校生活と一人ひとりが大切にされる教育活動 ・総合的な学力の伸長と進路希望実現 〈保護者〉 ・子どもの学力と人間力の伸長、そのための教育活動の充実、安全・安心な学習環境 〈地域社会〉 ・地域で信頼される「公立進学校」として、将来の社会を支える市民を育成するとともに、地域を活性化させる教育活動を行うこと	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉 ・安全・安心な学校生活・学習環境 ・子どもの人間的成長と進路希望実現 〈地域社会〉 1　小中学校 ・卒業生の学力および人間力の伸長 ・学習活動における連携・協力 2　地域社会 ・リーダーとしての姿勢や態度の育成 ・地域活動への生徒の積極的な参加 3　大学、研究機関等 ・基礎的研究の理解と興味・関心の喚起 ・人的、物的な教育資源の活用 4　卒業生（同窓会） ・「自主・自律」の伝統の継承 ・同窓会活動における在校生との交流	〈保護者〉 ・本校教育方針の理解と協力 ・相互の信頼に基づく意思疎通 〈地域社会〉 1　小中学校 ・学習活動における連携・協力 2　地域社会 ・市民性、社会性を育む学習機会の提供 3　大学、研究機関等 ・専門的な研究活動の機会や場の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供 4　卒業生（同窓会） ・「自校教育」の機会の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供
(3) 前年度の学校関係者評価等	○授業アンケートで８割が「学ぶことに興味が持てた」、「学んだことを活用し、深く考える場があった」と答えたのは大きな成果である。高校時代に主体的学習を身につけておかないと、大学入学後の授業や卒業研究にも影響する。 ○コロナ禍の状況の中で、趣向を凝らした取組を見ることができた。本年度の成果と課題を具体的に捉えて、次年度へと生かしていく必要がある。 ○今後も「自主・自律」の精神が長く受け継ぎ、「多様な個性の尊重」を図りつつ、それぞれ豊かな人格形成を目指してほしい。	

(4) 現状と課題	教育活動	○「自主・自律」の精神を受け継いでいくためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」を育成する方法を、学校全体で組織的に検討していく必要がある。 ○「深い学び」を実現するために、整備されたＩＣＴ機器の活用方法を組織的に検討していく必要がある。 ○授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントについては、取組が十分ではない状況であることから、教科横断的な視点から教育活動の改善を進め、学校の組織力向上を図る必要がある。 ○数字には表れない生徒の資質を多面的、多角的に評価するあるいは伸長を促す方法を、研究・実践する必要がある。
	学校運営等	○昨年度は長期に渡る臨時休業やスクールサポートスタッフ（ＳＳＳ）の活用により、時間外労働時間はかなり削減することができたが、今年度はＳＳＳの配置される時間数が減ることから、一層の業務削減に取り組む必要がある。 ○ＩＣＴ機器の導入によりその活用が求められる中、使用スキル向上のための研修などを効率的に取り入れ、教職員の負担にならないように進めていく必要がある。 ○生徒の抱えている問題が多様化していることから、保護者だけでなく、多様な外部専門機関と連携をさらに進めていく必要がある。 ○本校の教育活動が生徒にとってより魅力あふれるものになり、そのことが結果的に校外にも広く伝わるよう、学校全体の活動をより良いものにしていく必要がある。

3　中長期的な重点目標

教育活動	１.「高い志」「自主・自律の精神」を育成し、高い次元での文武両道を実現し、生徒一人ひとりの人間力を高める。 ２.「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進、ＩＣＴを活用した取組等、授業を中心とした教科指導を充実し、確かな学力の向上を図るとともに、入学から卒業まで見通した進路指導を充実させ、生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に取り組む。 ３．他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、倫理観、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成に取り組む。 ４．ＳＳＨ事業を全校体制で推進し、生徒一人ひとりに「探究心」を醸成し、「創造性」「協働性」「課題解決能力」を育み、国際社会で活躍できる人材を育成する。
学校運営等	１．教職員の資質能力の向上に取り組むとともに、教職員同士の助け合い・教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む組織力ある学校づくりを行う。 ２．教育活動や学校運営について組織的・継続的な改善を図るとともに、学校・家庭・地域との連携を強化し、学校力を高める。 ３．業務の精選、総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が情熱とやりがいを持って、健康で働くことのできる環境づくりを行う。

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的学習者の育成と確かな学力の向上	◇質の高い授業づくり ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善，探究的な学びの推進等に組織的に取り組み，質の高い授業づくりを目指します。 【活動指標】 ・授業アンケートの実施（年２回） ・「探究的な学び」につなげるため，アンケート項目の見直しを検討 【成果指標】 ・「主体的・対話的」および「深い学び」に関するアンケート項目について，生徒の回答の③「ほぼ満足」および④「満足」の割合の合計の値が 75%以上，かつ④の値が 40%以上 ◇学習習慣の確立 ・主体的に学ぶ習慣の定着を図るため、初期指導を充実させる一方で，提出課題の量をなるべく少なくして自ら考えて学習するよう指導します。 【活動指標・成果指標】 ・英語、数学、国語の「学習ガイダンス」の実施 ・振り返りアンケートにおいて、各教科とも「役立った」「まあまあ役立った」の合計が 90%以上 ・学習意欲の向上を図るため、「高い志」を持たせるとともに「学ぶ意義」を意識させることを、継続的に働きかけます。 ・「学校生活についてのアンケート」項目「意欲的に学習に取り組めているか」について、生徒の回答の②「だいたいできている」および③「できている」の割合の合計の値が 80%以上、かつ③の値が 35%以上	・アンケート項目は昨年度変更したので検討はしましたがそのままとしました。 ・10 月に前期授業アンケートを実施しました。「（設問１）学ぶことに興味や関心が持てた」の回答は③＋④が 90.3%（昨年度後期との比 4.4%増），④が 44.6%（同 9.6%増）／「（設問２）学んだことを活用し，深く考える場があった」の回答は③＋④が 87.5%（同 5.6%増），④が 41.6%（同 10.9%増）でした。 ・３月に後期授業アンケートを実施しました。（設問１）の回答は③＋④が 91.1%，④が 51.1%，（設問２）の回答は③＋④が 90.2%，④が 52.4%でした。 ・学習ガイダンスの振り返りアンケート「役立った」「まあまあ役立った」の合計は国語 94%，数学 97%，英語 97%でした。 ・「学校生活アンケート」の「意欲的に学習に取り組めているか」は②＋③が 80%，③が 27%でした。	◎

改善課題
・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や探究的な学びの推進等については，授業アンケートの結果から見て，着実に前進しているものと思われる一方で，教員がさまざまな業務に追われ忙しすぎるため組織的に授業改善にじっくり取り組むのがなかなか難しい現状があります。ＩＣＴを活用した業務改善・業務軽減にさらに取り組んでいきたいと考えます。 ・来年度の入学生から「新教育課程」「１人１台端末」「３観点による評価」が始まります。とくに「１人１台端末」を生かして「探究的な学び」や，「個別最適な学び」にいかにしてつなげていくかを模索していかなければなりません。また，「３観点による評価」を実施することでどのように授業を改善していくかということも検討課題です。 ・「新教育課程」による教育活動を展開しつつ，その中で見えてくる問題点・改善点を受けてよりよい教育課程を作っていくことも必要になってきます。 ・これらの課題について組織的に取り組んでいくことが求められます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導	◇「自主・自律」の精神の涵養 ・「高い知性と教養を持ったリーダー」の土台となる「自主・自律」の精神の涵養を目指し、生徒が必要な情報を自ら分析・判断し、実際の行動に移せるような資質を養うことを目指します。 【活動指標】 ・生徒が将来について考えられる機会の提供 ・日々の学習と社会の接点が意識できるような活動を提供することによる社会貢献の意識の醸成 【成果指標】 ・第一進路希望実現率等	・ＬＨＲや長期休暇等を活用し、進路について調べ、まとめる活動を各学年で実施しました。 ・校外での活動が例年より少なくなりましたが、校内での出前授業やオンラインを利用した研修を一部実施しました。 ・成果指標について、52%の生徒が 11 月時点の志望校（国公立、私立含む）に出願し、そのうちの 56%が合格しました。	※

改善課題
・ＩＣＴ等を活用しながら生徒の進路学習や外部と連携した活動をさらに充実させる必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育	1　人権を重んじ、自由と責任を自覚した人間の基盤となる力をあらゆる教育活動の中で培います。 2　生徒の自主性を大切にした人権学習を展開します。 【活動指標】 ・各学年で行う人権アンケート	・新型コロナウイルス感染症による影響で計画の見直しが必要でしたが、概ね予定通り行うことができました。 ・アンケートで 8 割以上の生徒がよかったと評価しました。	◎

改善課題
・新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら、充実した人権教育を実施するためにはどうような形態・内容がよいのかさらに検討する必要があります。また生徒にとって、人権問題を身近な問題として捉えることのできる課題設定を考えていきます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導	1　基本的な生活習慣の確立を目指します。 2　社会生活におけるマナーの向上を目指します。 【活動指標】 ・交通安全・登校指導週間、完全下校巡視、校内巡視、情報モラル・いのちの教育講座の実施 ・生徒会活動、ＨＲ活動、部活動、課外活動を奨励します。 【活動指標】 ・各種教育活動の実施 【成果指標】 ・部活動加入率等（90%以上の継続を目指す） ・互いの人格を尊重し、他人を思いやる心を育成します。 【活動指標】 ・各種集会での講話等の実施	・登下校指導や完全下校指導を実施することで、通学路の生徒の安全やマナーの向上、挨拶の徹底、時間の遵守につなげています。 ・生徒会行事や部活動を通じて、元気で、積極性のある生徒の育成を目指しました。年度当初での部活動加入率は 101.6%でした。（兼部含む）１年生 113% ２年生　89% ３年生　91% ・三重県いじめ強化月間取組みとして、生徒会を中心に、挨拶運動・ピンクシャツ運動を行いました。	※

改善課題			
・小さなトラブルがないわけではありませんので、未然防止のためにより細やかな見守りをする、生徒の話を聞く機会を積極的に作るなども必要であると考えています。 ・スマートフォンの使用については、昨年と同様にマナーとルールの徹底を図っていく必要があります。 ・講演会などの時間がなかなかとれないので、交通安全教室や情報モラル教育を工夫してとりいれていきたいと考えています。			
項目	**取組内容・指標**	**結果**	**備考**
国際教育	◇ＳＳＨ事業、海外研修等の企画を活用した国際交流活動の推進 ・国際的な視野の育成を図ります。 【活動指標】 ・台湾の高校生との交流（オンライン含む） ・次年度ＳＳＨ台湾研修の計画立案 ◇各種団体の主催する国際交流活動への参加を促進 ・県教育委員会主催の海外研修等への参加を推奨します。 【活動指標】 ・国際交流活動参加生徒の、のべ人数	・台湾中山高級中學の生徒達との交流をオンラインで実施しました。参加生徒数 19 名。 ・SSH 台湾研修を企画し、参加生徒を募集・決定しました。 ・県教委主催のオンライン海外交流に 10 名、・グローバル環境セミナーに２名が参加しました。	
改善課題			
・国際的な往来が難しい状況が続いているが、次年度もＩＣＴを活用したオンライン交流など、可能な限り生徒の学びのニーズに応え、体験の機会を確保していく必要があります。			
項目	**取組内容・指標**	**結果**	**備考**
文化活動の推進	◇読書生活指導の充実 ・本校図書館は、「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーを育成するため、読書生活を支える場、文化的教養を育てる場、自主学習の場、交流の場として、幅広い知識と豊かな情操を養う資料を収集整備して、活用の充実に努める。また、文化活動を通じて文化的教養を育成します。 【活動指標、成果指標】 ・読書環境の整備、利用の促進（貸出 6,500 冊、生徒貸出率 40%） ・分掌・学年・教科等との連携、およびＳＳＨ、ＬＨＲ、授業等への支援 ・各種コンクールへの応募、上位入賞目標 ・蔵書管理のシステム化、「学校図書館資料共有化ネットワーク事業」の推進 ・図書館を文化情報センターとして位置づけた、文化・学習　にかかる情報収集と情報発信 ・文化講演会・読書週間行事（朗読会）・ビブリオバトル・推薦図書紹介・ギャラリー展示、青空図書館等の実施 ◇芸術鑑賞の奨励 1　ＰＴＡ主催の芸術鑑賞補助事業等への参加を積極的に促します。 【活動指標】 ・芸術鑑賞事業等への参加人数	貸出　9,515 冊 生徒貸出率　48.5% ・図書館行事として以下を実施。 津高生に本を届けようプロジェクト、青空図書館、匠の部屋、Ｗｉｋｉｐｅｄｉａタウン、書の甲子園出品作品展、図書館図鑑講座、一志病院との連携企画、文化講演会、カバン・Ｔシャツ生徒作品展、図書館ライブ、車座トーク、校内ビブリオバトル大会、図書カードデザイン募集 ・第 67 回青少年読書感想文 ［三重県審査］ 優秀賞１名、優良賞１名 ・第 33 回読書感想画中央コンクール ［三重県審査］ 最優秀賞 2 名、優秀賞１名、努力賞１名	※

改善課題
・読書感想文指導に於いては、審査をしていただいた担任の先生方をはじめ、学年や国語科の先生方のご協力で今年度も三重県審査で優秀賞を受賞するなど読書活動の成果を上げることができました。今後も継続して、読むだけではなく表現できる力を生徒につけさせるような読書活動を推進していくことが課題です。また、読書感想画に於いては、美術部のご協力により、最優秀賞及び優秀賞を受賞することができました。今後は、校内にこの取組を広げていくことが課題です。 ・読書環境の整備については、事務部の協力をいただき、追加の書籍費に加え、移動式長机をさらに導入することができ、図書館の授業利用や部活動などのイベント利用がさらに進めることができました。次年度は ICT を利用した授業利用がさらに増えると予想されるので生徒の一人一台パソコンに対応した図書館の環境整備を考えていくことが課題です。 ・図書館を文化情報センターとして位置づけた情報発信や交流の行事を学年・分掌・部活動等の協力によって実施することができました。昨年度より参加生徒は増えたものの、今年度もやや偏りが見られました。より幅広い生徒の参加が課題です。 ・読書活動の推進については、学年での取組や担任の先生方の呼び掛けなどのご協力もあり、生徒貸出冊数・生徒貸出率ともに順調に伸びてきています。今後は、さらに生徒貸出率を伸ばし、より幅広い生徒が利用する図書館にすることが課題です。

項目	取組内容・指標	結果	備考
健康教育	◇保健管理と保健教育、健康相談 1　心身共に健康で安全な生活を自主的に実践できる能力および態度の育成に努めます。 2　健康診断、健康相談の充実と事後指導の徹底に努めます。 3　学年毎の健康重点目標に沿った健康教育の充実を図ります。 【活動指標】 ・保健講話(各学年１回) ・「保健だより」の年 10 回発行 ◇救急時の対応 1　安全に対する意識を高める指導を行います。 2　救急体制の充実を図ります。 ◇感染症予防への取り組み 1　感染症の早期探知及び生徒健康状況の把握を行います。（欠席状況調べ、健康観察等） 2　感染症を未然に防ぐ取り組みを進めます。 （手指消毒液等の環境整備、感染症に関する保健指導等） ◇教育相談 1　全ての教育活動をとおして、生徒の悩みや不安の解決に向けた支援や対応を行います。 2　生徒を取り巻く環境を把握し、支援や対応を行います。 3　保護者、担任、学年主任、保健室、部活動顧問等と情報を共有しながら支援や対応を行います。 【活動指標】 ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年 12 回以上) ・「教育相談だより」の年３回以上の発行	・保健講話：１年生の性教育、２年生の薬物乱用防止教室、３年生の受験期の健康管理を実施しました。 ・「保健だより」は定期号を 10 回、修学旅行前特別号（２年生）を１回、受験号（３年生）を１回発行しました。 ・手指消毒液自動噴霧器、サーキュレーターの設置等、感染症対策のための環境整備や黙食指導を行いました。 ・スクールカウンセラーによる教育相談は、30 回実施しました。 ・スクールカウンセラーの緊急派遣による教育相談は２回実施しました。 ・発達障がい支援員による面談は２回実施しました。 ・教育相談だよりは４月と６月、１月の計３回発行しました。	

改善課題
・今年度実施した感染症対策を、学年団・他分掌と連携を取りながら、学校全体の取組みとして継続していく必要があります。 ・継続して安全意識を高め事故の未然防止に努めるとともに、危機発生時の救急体制について、教職員の共有を継続する必要があります。 ・生徒の抱える問題の多様化・複雑化に対応するためには、担任、養護教諭、保護者との日々の連携はもちろんのこと、特別支援員、時には病院の医師との連携も必要です。生徒の困り感の早期発見、情報共有、対応の必要性がますます重要となってきています。 ・担任、学年主任、養護教諭、管理職、関係する専門家と密に連携をとりながら支援を行いました。しかし、深刻な悩みを持ちながらも教育相談とつながっていない生徒もいます。今後も注視していくとともに、担任や学年主任と情報共有し丁寧な支援を行っていく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
防災教育	◇防災学習の充実 1　避難経路､避難方法を年度早期において確認します。 2　より実際的な場面を想定した避難訓練を実施します。 3　「防災ノート」を活用した防災学習を実施します。 【活動指標】 ・防災訓練、防災学習の実施（年各１～２回）	・実態に即して、年度当初に校舎内からの避難経路を一部変更し、避難経路・方法を生徒、教職員で確認、共有しました。（4 月） ・感染症対策により全校生徒一斉の避難訓練は実施を見送り、各学年単位で避難経路を確認する等の形式に変更しました。（10 月） ・「防災ノート」を用いて、学校内外および家庭での防災意識を高める学習を行いました。（10 月）	※

改善課題
・日常的に大規模な災害に備え、防災意識を高める学習活動を継続的に行う必要があります。 ・非常時において、校内に限らず通学路やその周辺、居住地等においても適切な行動をとれるように、情報の共有や防災学習を行う必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
探究的活動の推進とＳＳＨ事業への取組	◇探究活動を核とし、全ての教育へつなげる科学教育システムの構築 1　探究心を醸成し、創造性、協働性、課題解決能力を育みます。 2　ＳＳ探究活動を中心に、主体的・対話的に課題を追求できる仕組みを構築します。 3　校内外の児童・生徒が相互に刺激を受けながら資質・能力を高め合う取組を実施します。 【活動指標】 ・「ＳＳ探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「夏季フィールドワーク」、「試行的な課題研究」の実施 ・「ＳＳ探究活動Ⅱ」において、１年間にわたる「課題研究」の実施、「ＳＳＨ児童・生徒研究発表会」での研究成果の発表 ・「ＳＳ探究活動Ⅲ」において、２年次の研究成果の論文作成、学会やコンテストで発表 ・「ＳＳ先進科学」「ＳＳ生命科学」「ＳＳ特別講義」の実施 ・「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」等の実施	・「ＳＳ探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「夏季フィールドワーク」、「試行的な課題研究」を実施しました。 ・「ＳＳ探究活動Ⅱ」において、「課題研究」を実施しました。 ・「ＳＳ探究活動Ⅲ」において、論文作成を実施しました。 ・「ＳＳ先進科学」「ＳＳ生命科学」「ＳＳ特別講義」を実施しました。 ・「ＳＳＨ児童・生徒研究発表会」、「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」を実施しました。	◎

改善課題
・「ＳＳ探究活動」において、生徒が研究を深めるためには、テーマの設定に時間をかける必要があると考えます。１年生での試行的な課題研究の経験を２年生の課題研究へ継続してつなげることが必要と考えます。そのために、１年生で興味のある研究テーマをやや大きく設定する方法が考えられます。 ・すべての教科・科目の授業をはじめとするすべての教育活動で探究的な学びの機会を提供するとともに、探究活動で身に付ける協働的な議論の手法、思考の整理方法や学びに対する態度の醸成をさらに図ることが課題です。そのためにも上級生が下級生に対して指導助言できる機会をカリキュラム内に設けることも課題と考えます。 ・外部の発表会への参加者や論文コンテストへの挑戦者を増やすことが課題です。学年、サポート教員、各教科や分掌、外部機関などと柔軟に連携を図りながら、生徒がより一層主体的に探究することができるよう、適切に支援する必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
環境・美化教育	◇環境美化、公共性の向上に向けた取組 【活動指標・成果指標】 ・美化委員会による清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック ・美化委員によるゴミ分別のチェック（原則毎日） ・環境美化改善へ、生徒のアイデアを取り入れた取組の実施 ◇環境問題に対する意識の醸成 【活動指標】 ・「環境週間」を設け、その一日を「学校環境デー」として美化委員で美化活動を実施	・美化委員会を６回開催し、清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバックを行いました。 ・集積場でのゴミの分別を美化委員がチェックしました。 ・学校環境デーを６月 30 日に実施し、学校周辺の除草作業を行いました。参加者は生徒 24 人・教職員５人の合計 29 人でした。	

改善課題
・ゴミの分別は、地域のよって分別方法が異なるため、分別が紛らわしいものの徹底が難しい。生徒・教職員への周知を徹底させる工夫がより必要です。 ・環境デーについては、生徒同士が密になる機会を避けるため、美化委員のみでの活動に制限しました。コロナ渦の中においても学校全体で取り組める美化・環境活動の内容の検討が必要です。

（２）学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組と教育課程の研究・改善	◇授業力向上の取組 ・授業研究や授業公開、授業評価等をとおして、授業力の向上を図ります。 【活動指標】 ・「授業力向上に向けた各教科の取組シート」の作成 ・全教科１回以上の授業公開の実施。学習指導委員が中心となり、他教科の授業見学を推進 ・教科内において、授業研究を実施・研究協議の充実・教員相互で、授業力を向上 ・保護者を対象とした授業公開の実施 【成果指標】 ・各教科における、授業アンケートの、授業改善のための資料としての活用、成果の検証 ◇「カリキュラム・マネジメント」の視点から，日々の教育活動について組織的に改善をおこない，また，探究的な学びの指導方法や評価方法についての研究を行います。 【活動指標】 ・学習指導委員会を中心とした様々な教員による、指導方法・評価方法の検討および実践の検証 ・学習指導のあり方・宿題のあり方等について教員間で意見交換をする場の設定	・各教科で「授業力向上に向けた取組シート」を作成しました。 ・各教科で授業公開を実施しました。 ・全教科で授業公開を実施，または実施予定です（１月１４日現在)。 ・感染症対策の観点から今年度は保護者対象の授業公開は実施していません。 ・３観点評価に向けて評価方法について，とくに，主体性評価をどうするかについて検討しています。 ・教育目標を実現するための，提出物などのありかたについて学習指導委員会・各教科会・企画委員会・職員会議の場で議論をすることができました。	◎

改善課題

・「カリキュラム・マネジメント」の視点から，日々の教育活動について組織的に改善をおこなう，という点について，どちらかというと各教科・各学年あるいは各教員の取り組みに任せてしまっている現状があり，組織的な取り組みとなっているとは言いがたいところです。組織的におこなっていくことで個々人の負担を減らすことにつながるかもしれないと考え，業務改善の視点と合わせて検討していきたいと思います。
・来年度から始まる「１人１台端末」の活用法についてもこのままでいくと各教科・各教員に任せてしまうことになってしまう可能性があります。活用法のモデルなどを示すことでイメージを共有し，教員一人ひとりの負担を軽減することにつなげたいです。
・授業を見学し合うのが当たり前になるようにするには，やはり余裕を生み出すことが必要であり，上記のような業務改善の積み重ねが大切になってくると思われます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導に関する情報共有	・生徒の進路決定に必要な情報を学年団に随時提供し、データを効果的に活用した指導体制を構築します。 【活動指標】 ・大学入試の変更等にかかる情報提供 ・校内外の試験の結果を基にした学年での成績分析会の実施	・校内外の成績データを基に分析会を実施し、情報交換や指導方針の共有を行いました。 ・入試の変更点について、各学年と随時情報を共有しました。	

改善課題

・大学入学選抜の種類が増加する中、過去の受験結果も参考にしながら、生徒に対する進学指導方法を共有していく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育に関わる情報、方法の共有	・教職員の人権教育に関わる研修、フィールドワーク、研究会等への参加を促進します。 【活動指標】 ・「人権だより」の発行、研修会の開催等 ・人権教育推進協議会の設置と情報の共有 ・人権教育推進協議会の開催、人権教育推進計画の策定	・障害者の人権に関する教員研修を７月に行いました。 ・人権教育推進協議会を、新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら実施しました。	

改善課題
・教職員研修について新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら充実した研修を行うにはどうしたらよいかを考える必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒情報および指導方法の共有	・一人ひとりの生徒理解に基づいたきめ細やかな支援を行います。 【活動指標】 ・学年会等での生徒情報交換の実施 ・面談週間をはじめ、随時面談を実施 ・綿密な保護者との連携、情報共有 ・より良い関係性構築に向けた校内での情報共有 ・特別支援教育にかかる教員研修の実施 ・特別支援教育委員会の実施	・教育相談に関する研修会を 11 月に実施しました。 ・特別支援教育推進委員会を年２回（４月・１月）実施しました。	◎

改善課題
・これまで特別支援教育に関する研修を行っていましたが、昨年度県内で命に関わる事案が発生したことを受け、今年度は教育相談に関わる研修を行いました。今後も生徒の様子に鑑みて実効性のある研修を行います。

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい職場環境づくり	・業務の精選や改善、校内組織の点検等を行い、総勤務時間縮減を図ります。 【活動指標】 ・定時退校日を月に１日 ・部活動休養日を週に１日 ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合を 85% 【成果指標】 ・1 人当たりの月平均時間外労働時間　30 時間以下の範囲内 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数　０人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数　０人 ・１人当たりの年間休暇取得日数　２日／年増加	・定時退校日として、定時退校週間に月１日。 ・部活動休養日を週に 1 日。 ・60 分以内に終了した会議の割合 76.9% (昨年度 82.1%) ・時間外労働時間平均 21.9 時間(昨年度 21.9 時間) ・月 45 時間を超える時間外労働者 88 人（昨年度 78 人） ・年 360 時間を超える時間外労働者 22 人 ・休暇取得日数平均 16.4 日(昨年度 16.5 日)	

改善課題
・ＳＳＳ（スクールサポートスタッフ）の活用や業務の改善を進めていますが、時間外労働時間、月45時間を超える時間外労働者数等は増加しました。特定の期間に時間外労働は増加する傾向があるためＩＣＴの活用による業務改善を推進し、定時退校週と部活動休養日の設定を継続して行います。

項目	取組内容・指標	結果	備考
広聴・広報活動	◇学校関係者評価委員会による学校評価を実施します。 【活動指標】 ・学校関係者評価委員会の実施（年２回） ◇ホームページ（ＨＰ）の活用、自治会との連携 ・積極的にＨＰを通じた情報発信を行います。また、「津高校だより」等を通じて、地域の方々等に本校の現状や取組についてお知らせします。 【活動指標】 ・ＨＰの更新（連絡、行事等の活動・成果に応じて、年間50回以上の更新） ・「津高校だより」の発行（年間６回程度） ・報道機関への情報提供（年間３回程度） ◇津高入門講座（8月）、学校見学会（8・10月）の実施 ・学校の「素」の姿を中学生に公開し、本校の教育活動を理解してもらうとともに、更なる改善につなげます。 ・10月にも「ミニ見学会」を企画し、本校の教育活動を中学生に紹介する機会を設けます。 【活動指標】 ・津高入門講座・学校見学会への参加促進と円滑な運営、参加人数およびアンケートの集約 ◇学校ＰＲ用動画、パンフレットの活用 ・生徒が主体となって学校ＰＲ用の動画およびパンフレットを作成し、広報活動に活用します。 【活動指標】 ・各中学校（生徒・保護者）への必要数配付	・学校関係者評価委員会を２回開催しました。（第１回・６月書面決議、第２回・２月） ・ＨＰ更新回数は60回でした。 ・「津高校だより」を年間５回発行しました。 ・本校生徒が主体的に運営した津高入門講座（８月）に中学校３年生431名申込・415名参加。アンケートより、在校生の学校紹介および教員の説明のいずれについても「受検校選択の参考になった」との回答が98%以上でした ・学校見学会は中学校３年生625名の申込がありましたが、感染症拡大の状況により中止しました。 ・生徒からデザインを募集し学校案内およびクリアファイルを作成し、各中学校に必要数を配布しました。	

改善課題
・学校ホームページを通じて十分な頻度で情報発信ができているが、ホームページ自体がやや見づらくレイアウトや構成を再考すべきという意見もあり、利用者にとってより分かりやすく魅力のあるものに刷新する必要があります。 ・本校生徒の学習活動や課外活動をもとに、生徒が主体となって企画・運営してきたこれまでの広報活動を継承しつつ、ＩＣＴを活用した内容をさらに取り込んでいく必要があります。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・授業アンケートで、「主体的学習者の育成と確かな学力の向上」において「ほぼ満足」「満足」が９割を超える成果は特筆すべき点です。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等への取組結果がうかがえます。 ・「文化活動の推進」の改善課題、「防災教育」の改善課題を具体的にわかりやすくし、実践に繋げるように取り組むようにすべきと思います。 ・図書の生徒貸出率が目標値を超えたことは好ましい。図書館を情報センターと位置づけて、データサイエンス教育への対応等、組織的活用を充実していくべきと考えます

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・１人１台端末の活用が進められますが、情報教育担当者等が中心となり、教員研修を計画的に実施するなど、体制作りが必要であります。 ・主体的学習者の育成と学力向上については新教育課程での授業改善がカギとなります。国際教育の充実を含めて、オンラインの活用等、ＩＣＴの効果的活用を推進する必要があります。
学校運営についての改善策	・地域或いは地域を越えたリーダーシップに優れた人材の育成に向けて、通わせたいと思わせる学校を明示し、通常授業の底上げ、カリキュラムの先行実施、課外等の積極的な取組を通して、中長期的に対外発信の努力が必要です。 ・広報について、ホームページの改善等を行い、情報発信を推進する必要があります。